

令和3年度事業報告

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、それらから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行っている。

また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進め、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告、講演等で行っている。

科学研究費助成事業

当研究所に所属する研究員は、科学研究費助成事業の出願が可能であり、個人・グループを問わず積極的に申請して文化財に関する研究活動を進め学会に寄与している。

科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、助成事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費として機関に措置される。

令和3年度科学研究費は、継続課題として科学研究費補助金によるものが2件、学術研究助成基金助成金によるものが6件、新規に採択された課題は科学研究費補助金によるものが1件、学術研究助成基金助成金による課題1件であった。

なお、学術研究助成基金助成金が研究期間全体の合計額で採択されるため、単年度の研究費は明記していない。

(1) 継続研究課題

<補助金>

基盤研究（A）一般

「出土金属製文化財の保存処理に使用された樹脂の寿命予測について」

令和2年度～令和5年度 植田直見 35,800千円（研究機関直接経費合計額）

基盤研究（B）一般

「海外文化財輸送技術との比較による日本の文化財輸送技術の発展に関する研究」

平成29年度～令和4年度 雨森久晃 11,600千円（研究期間直接経費合計額）
（コロナ禍による海外調査中断の為、再延長）

<基金>

基盤研究（C）一般

「古代中世東アジアにおける服装の伝播と地域性に関する研究 ―髪型と装身具を中心に―」

令和2年度～令和4年度 木沢直子 3,300千円（研究期間直接経費合計額）

「寺院伝来の文献史料および文字史料の総合による中近世寺院史料学の構築」

令和2年度～令和5年度 三宅徹誠 1,900千円（研究期間直接経費合計額）

「天然素材から合成素材へ ―現代歴史資料の保存に関する研究―」

令和2年度～令和4年度 金山正子 2,800千円（研究期間直接経費合計額）

若手研究

「中世木札文書の史料学的研究」

令和元年度～令和4年度 服部光真 1,900千円（研究期間直接経費合計額）

「城郭石垣の構築に用いられた石工技術の基礎的研究」

令和元年度～令和4年度 坂本 俊 2,900千円（研究期間直接経費合計額）

（コロナ禍による進捗状況遅れの為、再延長）

「水損した民俗文化財における鉄汚染被害の解明と対処方法の構築」

令和2年度～令和4年度 金澤 馨 3,100千円（研究期間直接経費合計額）

(2) 新規研究課題

<補助金>

基盤研究（B）一般

「保存処理に起因する出土木製品の強度低下について ―調査と対策―」

令和3年度～令和7年度 川本耕三 13,800千円（研究期間直接経費合計額）

<基金>

基盤研究（C）一般

「武器・武具の祭祀利用の受容と展開」

令和3年度～令和5年度 塚本敏夫 3,300千円（研究期間直接経費合計額）

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査研究グループ

人文学分野

総本山長谷寺（奈良県桜井市）	文化財等保存調査事業
松原市（大阪府）	市内文化財総合調査業務委託
華嚴宗元興寺（奈良市）	所蔵彫刻資料の総合調査
真言宗十輪院（奈良市）	南都十輪院歴史資料総合調査および寺史編さん事業
香川県	札所寺院の史跡指定に係る ^{どおりゅうじ} 道隆寺文化財詳細調査
愛媛県	札所の文化財詳細調査業務
高知県	札所寺院 ^{ぜんじぶじ} （禅師 峰寺）文化財調査委託業務
^{さまにちょう} 様似町（北海道）	熊崎直平氏資料翻刻業務委託
高槻市（大阪府）	高槻市立しろあと歴史館古文書史料目録作成業務

寺院を対象とする継続的な事業として、長谷寺の文化財等保存調査事業では、古文書・古記録、聖教類、染織品、工芸品などについての調査・整理を実施した。松原市の総合調査では、浄土真宗善正寺の古文書、聖教調査を開始している。

華嚴宗元興寺の所蔵彫刻資料の総合調査は、本堂に所在する彫刻について実施し報告書を作成した。当事業については公益財団法人大和文化財保存会から助成を受けた。

十輪院の寺史編さん事業では、所蔵文化財の総合調査を経て、その締めくくりとなる展覧会事業を秋季特別展『ならまちの地蔵霊場 十輪院の歴史と信仰』として実施し、寺史を兼ねた図録を刊行した。出版には京阪奈情報教育出版の協力を得た。

四国遍路札所寺院の文化財詳細調査は、建造物、石造物、絵画、工芸、彫刻、古文書・古記録、聖教等を対象とするものである。香川県では、道隆寺の調査を実施した。高知県では禅師峰寺の調査を実施した。愛媛県では西林寺、繁多寺、延命寺、円明寺、栄福寺の調査を実施し、西林寺、繁多寺は調査を完了した。それぞれ、報告書刊行のための文化財目録・報告文を提出した。

なお、平成25年度から調査を行った志度寺の報告書（第2分冊）が香川県から刊行され、平成24年から調査を行った三角寺、平成30年度から調査を行った大寶寺、岩屋寺の報告書が愛媛県から刊行されている。

その他、古文書目録作成・翻刻、拓本採取など、古文書や石造物の資料化のための基礎的な調査、作業を行った。

考古学分野

(発掘調査業務)

医療法人中川会（奈良県高取町） 越智遺跡発掘調査業務

(株)島田組 平城京左京三条四坊十一坪発掘調査業務

リアルアセット(株) 平城京左京三条三坊三坪発掘調査業務

(整理報告書作成業務)

野村不動産(株) 平城京跡（左京四条四坊九坪）整理報告書作成業務

清水建設(株) 平城京左京四条六坊八坪・奈良町遺跡発掘調査整理報告書作成業務

大和ハウス工業(株) 平城京左京三条六坊十二坪・奈良町遺跡発掘調査整理報告書作成業務

アパホーム(株) 平城京左京三条六坊十二坪・三条大路、奈良町遺跡（上三条町）発掘調査整理報告書作成業務

野村不動産(株) 平城京左京三条四坊十一坪整理報告書作成業務
（令和4年度継続）

三都住建(株) 菅原遺跡発掘調査整理報告書作成業務
（令和4年度継続）

小山(株) 平城京左京五条五坊十一坪発掘調査整理報告書作成業務
（令和4年度継続）

(石造品調査業務)

高野町教育委員会（和歌山県） 史跡金剛峯寺旧境内（奥院地区）大名墓総合調査業務に係る委託業務

和歌山県立博物館 災害記念碑拓本採取業務

発掘調査は3件行った。奈良市内では、開発行為を原因とする平城京跡を対象とした2件の発掘調査を行った。いずれも令和5年度に発掘調査報告書の刊行を予定している。

なお、平城京左京三条四坊十一坪発掘調査業務は、調査と報告を別契約で行っている。

奈良市以外では、奈良県高取町の越智遺跡の発掘調査業務を行い、令和5年度に発掘調査報告書の刊行を予定している。

整理報告業務は7件行った。そのうち令和2年度に発掘調査を行った平城京跡の4件の発掘調査の整理業務を行い、平城京左京四条四坊十一坪の発掘調査報告書を令和3年9月、他の3件を令和4年3月に刊行した。整理業務が継続となる残りの3件のうち、平城京左京三条四坊十一坪と菅原遺跡は令和4年度末の発掘調査報告書の刊行を予定している。平城京左京五条五坊十一坪は令和4年度に新たに発掘調査を行い、これを合わせた報告書刊行へと変更となった

ため、令和5年度末の発掘調査報告書の刊行を予定している。

石造物関係の調査は2件受託している。高野山奥之院基礎資料整理業務は、国指定史跡高野山奥之院の保護活用のために令和元年度にインデックスとしての悉皆調査報告書を刊行したが、今後銘文編を含めた悉皆調査報告書を刊行するために詳細調査を継続している。

和歌山県立博物館の業務は、津波災害記念碑の調査である。

伝世資料分野

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）

所蔵資料の状態調査

平成18年度より継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査は、16年目の業務を完了した。同館内では資料系の管轄業務として位置づけられており、館内会議にて教員からのオファーを募り調査対象が決定されている。館内業務は昨年度に引き続き現地調査員1名が常駐し、当所研究員の指導と歴博資料係員の協力体制のもと、「砲術関係資料」コレクションの状態調査（悉皆調査）を実施した。

令和3年度は、令和2年度より続く新型コロナウイルス感染拡大のため千葉県下に「まん延防止等重点措置」が発令された期間もあったが、館内業務は滞ることなく継続できた。

埋蔵文化財保存研究グループ

金属製品・土器分野

堺市博物館（大阪府堺市）

大塚山古墳基礎整理等業務

令和2年度より引き続き堺市博物館が所有する百舌鳥大塚山古墳出土遺物について、遺物の種類、数量、状態を把握し、今後の保存・復元・活用に向けた基礎整理を行った。事業は令和4年度末までを予定している。

保存科学研究グループ

（公財）大阪府文化財センター

大阪府立近つ飛鳥博物館（太子町）

所蔵大修理の保存状態調査

東京都立江戸東京博物館

展示環境調査

平成9年度以来、近つ飛鳥博物館の展示室内で大修理の寸法計測や状態調査を継続している。部分的な補填材の経年劣化等はみられるものの、概ね良好な状態である。

巡回展「発掘された日本列島2021」の本年度最初の会場である東京都立江戸東京博物館での展示作業において、展示会場の空気質調査を行った。最初の会場では新造した造作物による展示空間の空気汚染の危険性が考えられるため、展示作業とともに空気質調査を行い、問題

が発生していないかの確認を行った。

文化財企画活用室

宮内庁正倉院事務所（奈良県奈良市） 正倉院宝物（漆胡瓶^{しつこへい}）の三次元計測

宮内庁正倉院事務所より委託を受けて正倉院宝物（漆胡瓶）の三次元計測を実施した。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内における主要石造物の詳細調査を実施し、『研究報告』に逐次掲載する形で公表を行ってきた。令和3年度は、奈良市菖蒲池町称名寺所在石造五輪塔の調査を行った。

称名寺は、文永2年(1265)興福寺の僧、専英と琳英、京都西山三鈷寺の澄忍上人の三僧が、常行念仏の道場として開山した。山号は日輪山、浄土宗西山派の寺院である。当初は興福寺の別院で「興北寺」とも呼ばれていた。本堂横の千体石仏群は、『奈良坊目拙解』に多聞城の石垣に用いられていたものを城の破却後に運び入れたと記されている。

調査を行った五輪塔は墓地の一画にあり、正面に納骨穴を穿つことから、惣供養塔と考えられる。調査により、銘文は認められなかったが、鎌倉時代後期の作例であると位置づけられた。

この成果は、令和4年度に刊行する『研究報告2022』に掲載する予定となっている。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究グループ

愛媛県	新谷古新谷遺跡 ^{にやこにや} 出土ガラス小玉の分析
堺市博物館（大阪府堺市）	大塚山古墳出土三尾鉄の分析
（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター	小樋尻 ^{こひじり} 遺跡出土盾の分析
愛知芸術文化センター愛知県美術館	木村定三コレクション金工品の分析
浦添市（沖縄県）	浦添ようどれ出土鍍金金具の分析

出土資料では、愛媛県今治市新谷古新谷遺跡から出土した、弥生時代後期から古墳時代中期後半のガラス小玉101点の蛍光X線分析を行い、カリガラス、ソーダ石灰ガラス、高アルミナソーダ石灰ガラスの3種に分類した。

大阪府堺市大塚山古墳から出土した三尾鉄のX線CT撮影、及び顕微鏡観察より、三尾鉄に複数の羽軸が残存していることが確認された。

また、京都府城陽市の小樋尻遺跡から出土した盾のX線CT撮影、顕微鏡観察、塗膜断面観察による製作技法の調査を行った。

伝世資料では、愛知県美術館所蔵木村定三コレクションの蛍光X線分析を行い、銅鏡2点が

青銅製であること、懸仏1点の各部位の材質、釜鎖1点の銀象嵌を確認した。

また、浦添市浦添ようどれ出土鍍金金具の蛍光X線分析の結果、金具は金銅板製、使用された鋳は金銅板製筥に銅製鋳脚を鉛錫合金でろう付けして製作されていることが確認された。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査研究グループ

伝世資料分野

常宮神社（福井県敦賀市） 延寿院（三重県名張市） 陸前高田市（岩手県） 愛知芸術文化センター愛知県美術館	国宝「朝鮮鐘」の修理業務 重要文化財「石造燈籠」の保存修復 被災国登録有形民俗文化財等修理業務 木村定三コレクションに係る保存修復処置 委託業務
名古屋大学（愛知県） （公財）世界人権問題研究センター（京都府） 関西大学（大阪府吹田市） 南方熊楠顕彰館（和歌山県田辺市） 大阪大谷大学（大阪府富田林市） 河内長野市（大阪府） 舞鶴引揚記念館（京都府舞鶴市）	河川絵図の修復 障子反故文書の解体・撮影 『関大スポーツ』の補修・脱酸加工 『和漢三才図会』の修復 拓本軸装丁 引札の修復 ユネスコ世界記憶遺産登録資料の保存処理

常宮神社の朝鮮鐘は、太和七年(833)三月の銘があり、新羅時代の朝鮮鐘で国宝に指定されている。一説によると慶長二年(1597)敦賀城主大谷吉継が、豊臣秀吉の命で常宮神社に奉納したと伝えられている鐘である。伝世資料担当では、初めての国宝の修理事業となる。事業の途中、資料のX線透過撮影などの調査が追加されたため、令和4年度に事業の繰り越しがなされ継続で作業を行うこととなった。返却は令和4年度秋を予定している。

延寿院にある石造灯籠は、竿に徳治二年(1307)丁未十一月の銘があり国指定重要文化財に指定されている。現地にて保存修復作業を行い、事業を無事終了した。石造品での初めての重要文化財修復業務となった。

陸前高田市は、令和2年度に引き続き本年度も東日本大震災による被災資料・陸前高田市立博物館所蔵の国登録漁撈用具及び収蔵資料（タンスなど）について修理を行った。

愛知県美術館に所蔵されている木村定三コレクションの内、十一面観音懸仏などの金属製品を令和2年度に引き続き保存修復を行い、事業を完了した。

古文書・絵図類の修復は漉嵌法を中心に進めており、名古屋大学の河川絵図も漉嵌法で修復

を実施した。

世界人権問題研究センターからの依頼は、古民家の障子を解体し下張りに使われていた古文書を全丁撮影し画像データベースを作成することで、納品後には研究活用されている。

また、大学の機関紙である『関大スポーツ』では、製本の解体・脱酸・修復・収納の一連の作業を行なったが、現代資料は今後も同様の需要が増加すると思われる。

南方熊楠顕彰館からは継続的に修復を依頼されており、『和漢三才図会』は刊行物だが南方熊楠自筆の書き込みが多数あり貴重な一次史料として扱われており、長文自筆箇所レプリカ作成、製本の補強、本紙の修復・保存箱作成を行なった。

河内長野市所蔵の郷土資料の引札等の修復は、継続的に実施している。

埋蔵文化財保存研究グループ

木製品分野

福井県立若狭歴史博物館（小浜市）	重要文化財鳥浜貝塚出土品の保存修理
広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財 ^{くさどせんげんちょう} 草戸千軒町遺跡出土品の保存修理
徳島県	重要文化財 ^{かんのんじしきじ} 観音寺・敷地遺跡出土品の保存修理
三島町（福島県）	重要文化財 ^{あらやしき} 荒屋敷遺跡出土品の保存修理
西宮市（兵庫県）	^{たかはたち} 高畑町遺跡出土品の保存処理
能登町（石川県）	^{まわき} 真脇遺跡出土品の保存処理
えびの市（宮崎県）	^{しまうち} 島内地下式横穴墓群第139号墓出土漆製品（弓漆）の保存処理
（公財）福島県文化振興財団	前田遺跡出土木製品の保存処理
（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター	小樋尻遺跡出土品（盾）の保存処理

重要文化財では、福井県若狭町鳥浜貝塚（縄文時代）、広島県福山市草戸千軒町遺跡（鎌倉～室町時代）、徳島県徳島市観音寺・敷地遺跡（飛鳥～平安時代）、福島県三島町荒屋敷遺跡（縄文時代）の出土品について保存修理を行った。このうち令和2年度からの継続事業である福島県三島町荒屋敷遺跡の出土品は保存修理および保管台作製を行い、本年度をもって修理を完了した。

他に、昨年度から継続して兵庫県西宮市高畑町遺跡（弥生～室町時代）、石川県能登町真脇遺跡（縄文時代前期～晩期）出土品、宮崎県えびの市島内地下式横穴墓群第139号墓（古墳時代中期末～後期前葉）出土漆製品（弓漆）の保存処理を行った。

また、令和3年度から4年度までの継続事業として、福島県川俣町前田遺跡（縄文時代中期後葉～晩期後葉）出土品（漆塗り容等）、京都府城陽市小樋尻遺跡（古墳時代前期）出土品（盾）などの保存処理を行った。

金属製品分野

宗像大社（福岡県宗像市）	国宝沖ノ島祭祀遺跡出土品の保存修理
茨城県（茨城県立歴史館・明治大学保管）	重要文化財 三昧塚 ^{さんまいづか} 古墳出土品の保存修理
福井県	重要文化財林・藤島遺跡出土品の保存修理
広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財草戸千軒町遺跡出土品の保存修理
松山市（愛媛県）	重要文化財朝日谷 2 号墳出土品の保存修理
行橋市（福岡県）	重要文化財 稲童 ^{いなどう} 古墳群出土品の保存修理
大分県	重要文化財府内大友氏遺跡出土品の保存修理
大分県	重要文化財 免ヶ平 ^{めん が ひら} 古墳出土品の保存修理
えびの市（宮崎県）	重要文化財島内地下式横穴墓群出土品の保存処理

宗像大社所蔵国宝沖ノ島祭祀遺跡（古墳時代から奈良時代）出土品の保存修理は、令和 3 年度から第 3 期に入り 4 年継続で実施中である。

重要文化財の保存修理では、昨年度から引き続いて福岡県稲童古墳群（古墳時代）出土品の保存修理、広島県草戸千軒町遺跡（鎌倉～室町時代）出土品の保存修理、茨城県三昧塚古墳（古墳時代）出土品の保存修理、宮崎県えびの市島内地下式横穴墓群出土品の保存修理を行った。

また、新たな事業として、愛媛県朝日谷 2 号墳出土遺物の保存修理を令和 3 年度から 4 年計画で実施中である。

このほか、福井県林・藤島遺跡（弥生時代）出土品の保存修理、大分県府内大友氏遺跡（室町～戦国時代）出土品、大分県免ヶ平古墳（古墳時代）出土品の保存修理を行った。

土器分野

常陸大宮市（茨城県）	重要文化財 泉坂下 ^{いずみさかした} 遺跡出土品保存修理
徳島県	重要文化財矢野遺跡出土品保存修理
茨城県（茨城県立歴史館・明治大学保管）	重要文化財三昧塚古墳出土品の保存修理
松山市（愛媛県）	重要文化財朝日谷 2 号墳出土品の保存修理

国の指定文化財の修理としては、令和 2 年度から引き続いて重要文化財茨城県泉坂下遺跡（弥生時代中期）出土壺形土器や重要文化財徳島県矢野遺跡（縄文時代後期）出土土面などの保存修理を行った。

また、令和元年度から継続して行ってきた茨城県三昧塚古墳（古墳時代中期）出土埴輪の保存修理は、本年度をもって終了した。

新たな事業として、重要文化財愛媛県朝日谷二号墳（古墳時代前期）出土土師器壺等の保存修理を令和 3 年度から 4 年計画で実施中である。

文化財企画活用室

茨城県（茨城県立歴史館・明治大学保管）	重要文化財三昧塚古墳出土品の保存台・ 保存箱・金銅冠の復元模造品の製作
大分県立歴史博物館（宇佐市）	重要文化財免ヶ平古墳出土品の保存台・ 保存箱の製作
広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財草戸千軒町遺跡出土品の保存台の 製作
東京国立博物館（東京都）	館蔵品（鉄刀・鉄板）の保存台の製作
福井県立若狭歴史博物館（小浜市）	重要文化財鳥浜貝塚出土品の保存台の製作
三島町（福島県）	荒屋敷遺跡（縄文時代）の出土品の保存台の 製作
福島県	前田遺跡出土木質遺物の保存台の製作
常陸大宮市（茨城県）	重要文化財泉坂下遺跡出土品の保存修理
宮内庁正倉院事務所（奈良市）	正倉院宝物（天平宝物墨）の保存台の製作
能美市博物館（石川県）	古墳出土甲冑の復元模造品の製作
東松島市（宮城県）	矢本横穴墓出土銅製帯金具の保存台・ ケースの製作

各部門での保存処理事業における保存台・保存箱の製作について、仕様・図面の作成、保存台の製作等に関し各部門と連携を取り合い実施した。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

展覧会の開催

秋季特別展 『ならまちの地蔵霊場 十輪院の歴史と信仰』 ※十輪院と共催
開催期間 10月23日(土)～11月14日(日)
開催場所 元興寺法輪館 入館者総数 6,863人

十輪院は、鎌倉時代の本堂（国宝）、地蔵石仏がん龕（重要文化財）などの文化財で知られる「ならまち」の古刹として良く知られる。奈良時代に元興寺の一院として草創されたとの由緒を伝え、鎌倉時代には奈良を代表する地蔵霊場のひとつとしてよく知られる存在となっていた。

当研究所では、十輪院所蔵文化財の総合調査を2015年から6年間にわたって実施し、これまで把握されていなかった様々な文化財が新たに確認され、十輪院の寺史や文化財について多くの知見が得られた。

本展では、この調査で見出された各種の資料を中心にゆかりの文化財を紹介し、「ならまち」とともに歩んできた十輪院の歴史、そしてその信仰の軌跡をたどった。

あわせて、会期中に講演会と展示解説・拝観ツアーを開催した。

講演会

講演：「朝野魚養あさののなかいの塚と石のほとけさま」 佐藤亜聖氏（滋賀県立大学）

講演：「都市奈良のなかの十輪院 ―歴史と信仰の歩み―」 服部光真（当研究所）

日 時：11月3日(水) 13時30分～15時30分

場 所：奈良市ならまちセンター 会議室

参加者：53名

展示解説・拝観ツアー

日 時：①10月31日(日) 14時～16時 参加者：22名

②11月13日(土) 16時～18時 参加者：28名

会 場：元興寺法輪館および十輪院

文化講座の開催

実践文化財学 講座編「保存科学から歴史を読むⅡ」

当研究所が創立以来、半世紀にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学など各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、わかりやすく研究所研究員が報告する講座の開催を計画した。広報は、令和2年度に引続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から積極的な広報は行わず、ホームページだけの広報を実施した。

講座は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け、第1回は中止、第2回・第4回は令和4年度に延期、第3回・第5回・第7回は実施し16名が参加された。

第1回	5月13日	「古代の金属器生産技術に迫る」(中止)	塚本敏夫
第2回	6月10日	「文化財の自然科学的観察」(延期)	山口繁生
第3回	7月 7日	「記録としての写真」	大久保治
第4回	9月 8日	「民具研究と科学分析」(延期)	桃井宏和
第5回	10月14日	「大型資料を後世に残すには ―大型民俗資料・美術工芸品の保存修復―」	雨森久晃
第6回	11月11日	「古代の組紐技法―解析と復元―」	小村眞理
第7回	12月 9日	「絵図修復の世界」	金山正子

場 所：総合文化財センター ルーパ館3階 時 間：13時30分～15時

展覧会等の開催支援

『発掘された日本列島 2021』展

文化庁と各開催館等が主催する「発掘された日本列島」展について、出陳物の集荷・納品に係る梱包・輸送、ポスター・リーフレットなどの印刷・発送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプション作成のほか、関連資料の管理、開催予定各館との調整など多岐にわたる業務を、平成20年度から引き続き受託した。

令和3年度は開催館が例年の5館から3館に減少して実施された。全国で実施されている発掘調査の成果だけでなく、地域において長年蓄積された調査研究の成果を含めて、これを一堂に会しながら全国を巡回させ、埋蔵文化財のみならず史跡等の文化財に関しても広くその意義と重要性を国民に広報することを目的とし、「新発見考古速報展」では近年発掘された遺跡で、発掘調査結果が全国的に注目された縄文時代から近世までの、18遺跡の紹介を行った。

「わが町が誇る遺跡」では、個性豊かな遺跡が紡ぎだす「地域の歴史の魅力」を幅広く発信しようと地方公共団体が作成した企画に基づいた展示を行った。今回は3つの企画を取り上げ、それぞれの地域における遺跡の継続的な調査研究から見てきた地域の人々が歩んだ歴史やその特色について、約400点の出土遺物と写真パネルの展示により解説する資料が出陳された。

特集「記念物100年」では、日本で記念物を指定する制度（「史蹟名勝天然記念物保存法」大正8年(1919)年に制定されて100年を迎えることを機会として令和元年度より行われている「記念物100年」事業の一環として、全国各地に所在する記念物をテーマに、次の100年に向けた取組について発信・PRする企画展示となった。

東京都江戸東京博物館（墨田区）	6月 5日～ 7月 4日	14,934人
苫小牧市美術博物館（北海道）	7月31日～ 9月12日	1,428人
群馬県立歴史博物館（高崎市）	10月 9日～11月21日	11,414人
合 計		27,776人

＊苫小牧市美術博物館に関しては、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け、8月28日から9月12日までの16日間は開催が中止となった。

元興寺文化財管理業務

世界遺産・元興寺と同寺所有文化財の管理業務として、境内環境の管理と法輪館の展示管理業務等を行った。

6. 報告書、書籍等の刊行

『元興寺文化財研究所研究報告 2021』（1,300冊）

（公益財団法人荏原 畠山記念文化財団助成事業）

研究員が科学研究費等による研究活動や仕事を通じて得た新しい所見や発見について報告を行う年報として、公益財団法人荏原 畠山記念文化財団の助成金を受け刊行した。

『平城京左京四条四坊十一坪（H J G 1 3 次）－令和2年度発掘調査報告書－』

令和2年度に発掘調査を行った奈良市平城京左京四条四坊十一坪の発掘調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

『平城京左京四条六坊八坪・奈良町遺跡（H J G 1 1 次）－令和2年度発掘調査報告書－』

令和2年度に発掘調査を行った奈良市平城京左京四条六坊八坪・奈良町遺跡の発掘調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

『平城京左京三条六坊十二坪・奈良町遺跡（H J G 1 0 次）－令和2年度発掘調査報告書－』

令和2年度に発掘調査を行った奈良市平城京左京三条六坊十二坪・奈良町遺跡（小西町）の発掘調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

『平城京左京三条六坊十二坪・奈良町遺跡（H J G 1 2 次）－令和2年度発掘調査報告書－』

令和2年度に発掘調査を行った奈良市平城京左京三条六坊十二坪・奈良町遺跡（上三条町）の発掘調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

『ならまちの地藏霊場 十輪院の歴史と信仰』

著者/編集：十輪院/元興寺文化財研究所 出版：京阪奈情報教育出版（2021年10月1日）

平成27年度から令和2年度にかけて実施した建造物、石造物、彫刻、絵画、工芸品、古文書・古記録、聖教、位牌、染織品等の調査成果から、一般向けの寺史を兼ねた図録を刊行した。

『奈良町の南玄関 ー歴史と文化をひらくー』

編集：元興寺文化財研究所 出版：京阪奈情報教育出版（2021年7月1日）

元興寺法輪館にて2016年に開催した秋季特別展「ならまちの南玄関」展を端緒として、その後も地元住民を中心に地域の歴史に関わる勉強会を重ねるなかで一般向けの書籍制作が企画され刊行した。

7. 体験活動等

研究、調査成果を還元し、文化財保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として実施している。

博物館実習の受け入れ

奈良大学（10名）、近畿大学（1名）、大阪大谷大学（2名）、京都女子大学（5名）の計18名を受け入れた。

施設見学会

総合文化財センター開所以来、定期的に一般個人向けの施設見学会を募集・開催しており令和3年度も7回開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため3回中止した。積極的な広報を行わなかったので参加者は8名であった。

その他

大谷大学（15人）、大阪大谷大学（6人）、大手前大学（3人）、京都府立大学（23人）、京都橘大学（35人）、奈良韓国学院（21人）、シニアCITYカレッジ（46人）の計7団体（149人）の見学を受け入れた。

第53回国際化学オリンピック日本大会 ICHO2021 Japan リモート大会

会期は7月25日(日)～8月2日(月)で、その間のエクスカージョンの一つとして古都・奈良の文化財を紹介する映像制作に協力した。

なお、映像の放映期間は、7月29日(木)～8月14日(土)であった。